

災害看護研修

研修名	地域災害支援ナース育成研修【基礎編】	
開催日時	1) 令和6年8月25日(日) 9:00～12:00 高知南・東地区支部 2) 9月21日(土) 9:00～12:00 吾川・佐川・須崎・窪川地区支部 3) 11月10日(日) 13:00～16:00 幡多地区支部 4) 11月23日(日)13:00～16:00 東部1・2地区支部	
研修形態	集合	
受講者数	1) 49名(会員35名 非会員14名) 2) 26名(会員22名 非会員 4名) 3) 16名(会員13名 非会員 3名) 4) 27名(会員23名 非会員 4名)	定員 各40名
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師	
ねらい	・災害発生後の、地域における看護職の役割について認識を深める。 ・トリアージに関する知識を演習を通し、高めることができる。	
講師	高知県立大学 看護学部 教授 竹崎久美子 高知県・高知市企業団立病院 高知医療センター日本DMAT隊員 岡崎 啓 土佐市立土佐市民病院 日本DMAT隊員 玉井 晶子 高知県立幡多看護専門学校 副校長 酒井 美保 高知県立幡多けんみん病院 日本DMAT隊員 山下 敏弘 高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院 日本DMAT隊員 西田 和真	
内容	災害時における看護支援活動/トリアージの基礎	

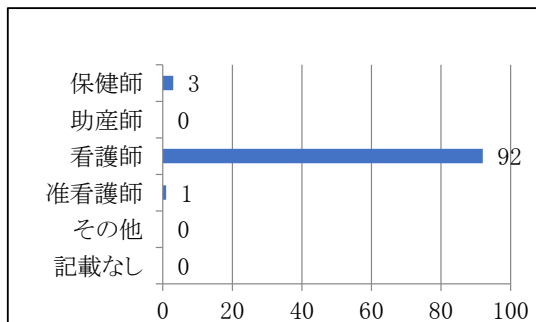
1. アンケート結果

参加人数118名 回答数95名 回答率75.5%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

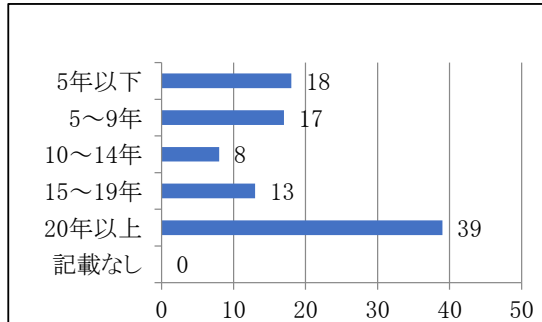
1) 職種

n=95



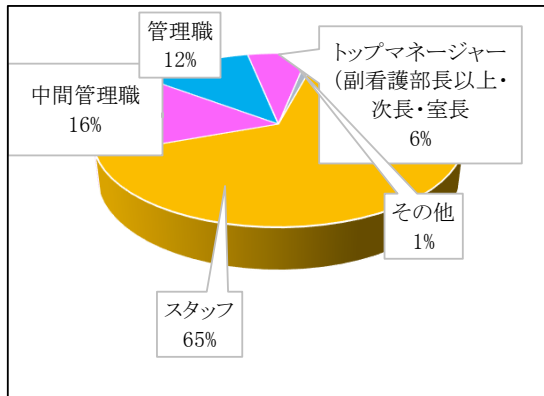
2) 経験年数

n=95



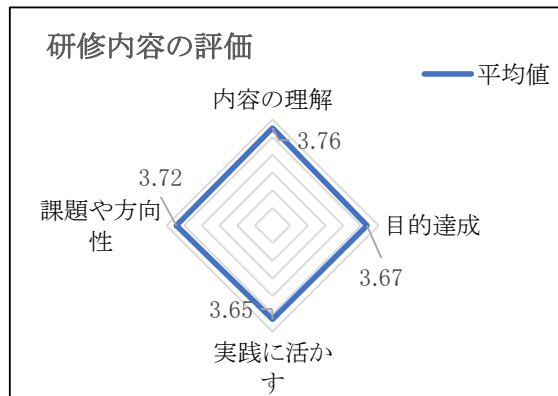
3) 職位

n=95

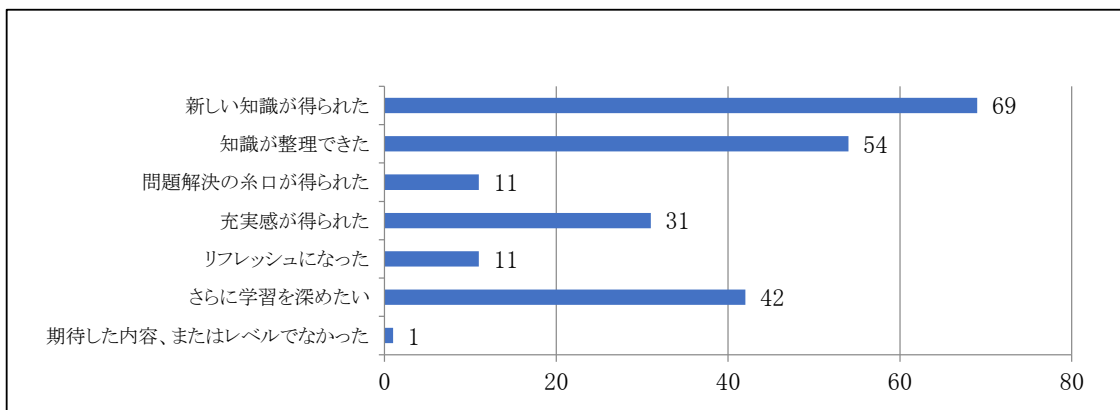


4) 研修内容の評価

n=95



5) 研修の講義全体を通じた感想(複数回答)



6) 意見感想(抜粋)

- ・繰り返し訓練が必要と思った。
- ・トリアージについては、職員に伝達講習をしたいと思う。
- ・トリアージの方法がよく理解できた。
- ・新しい情報もまじえながらの講義であった。実際に考えて答えて、という形式はわかりやすく覚えやすかった。本日の資料は、自施設に帰って、みんなで共有しようと思う。
- ・今後確実に必要である知識を学ぶ事ができ、とても身になる研修だった。実際災害が起こった時、この知識があるのとないのでは動き方、考え方が全く違ってくると思うので、自分の病院内でも共有していきたい、自分一人ではなくみんなが協力してスムーズに動けるようにしていきたいと思う。次回の実務編もぜひ参加させていただきたい。
- ・今後災害のことを考えていかなければならないと、思い勉強のため参加した。動画で実際の震災後の動作が見れてよかった。
- ・基礎編を受けていなかったなので、地域外でしたが参加をさせて頂きました。PATについて、しっかりとできる訓練の繰り返しが必要と感じた。
- ・災害時に行える看護師の役割が理解できた。トリアージの方法が詳しくて、実演で見れたのがよりわかりやすかった。
- ・わかりやすく、自分の職場の事務職員の方にも研修に参加してもらおうようにしていきたい。

2.研修担当者コメント

今年度は4地区支部と連携し地域の特徴を踏まえた企画で開催できた。受講者は南海トラフ地震の備え、地域災害支援ナースの役割、基本的なトリアージの理解と災害発生時における看護師の役割を理解できた。研修内容は持ち帰り、自施設での災害研修に活かせる内容でもあった。

今後も近隣関係機関との顔の見える関係づくりのできる研修を企画していく。

災害看護研修

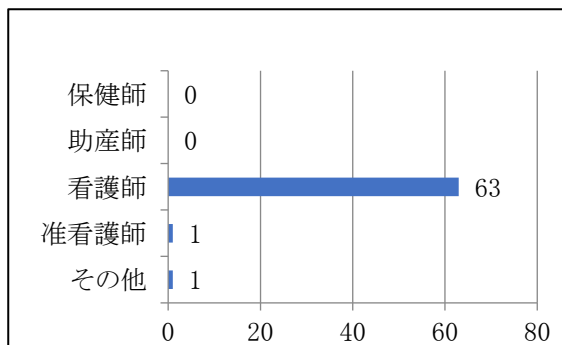
研修名	地域災害支援ナース育成研修【実務編】	
開催日時	1) 令和6年7月27日(土) 13:00~16:00 高知北・西地区支部 2) 10月26日(土) 9:00~12:00 高知県看護協会 3) 11月10日(日) 13:00~16:00 幡多地区支部	
研修形態	集合	
受講者数	1) 20名(会員16名 非会員 4名) 2) 45名(会員34名 非会員 11名) 3) 19名(会員13名 非会員 6名)	定員 各40名
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師	
ねらい	災害看護に必要な知識・技術を身に着ける。 地域における被災状況や防災対策を理解し、他団体との連携を学ぶ。	
講師 演習指導者	高知県立大学 看護学部教授 竹崎 久美子 高知赤十字病院 日本DMAT隊員 寺尾浩・宮田めぐみ 近森病院 日本DMAT隊員 齋坂美賀子・立石修久 四万十市立市民病院 日本DMAT隊員 有田嘉代・北川了三・沖麻美・渡邊三奈	
内容	災害看護活動の実際/福祉避難所における看護活動	

1. アンケート結果

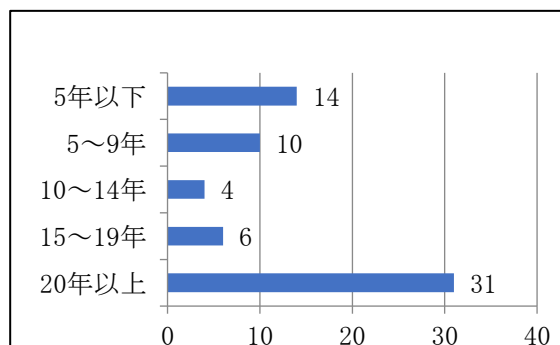
参加人数84名 回答数95名 回答率75.5%

※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

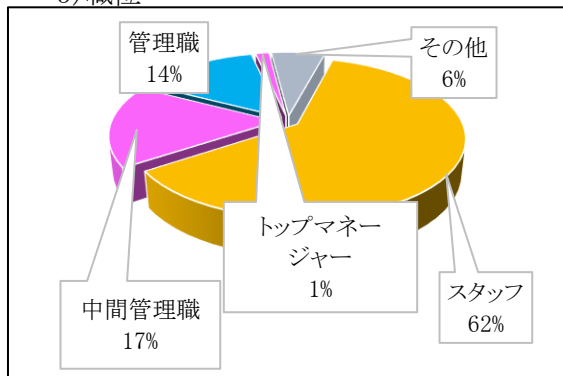
1) 職種



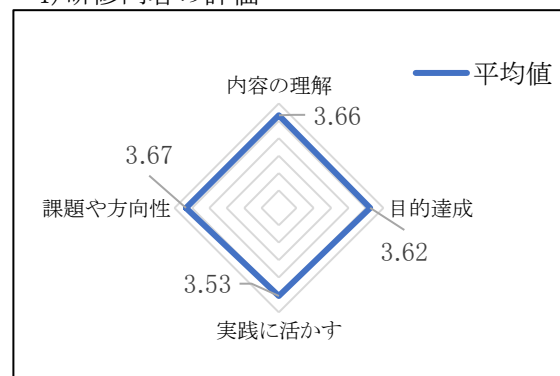
2) 経験年数



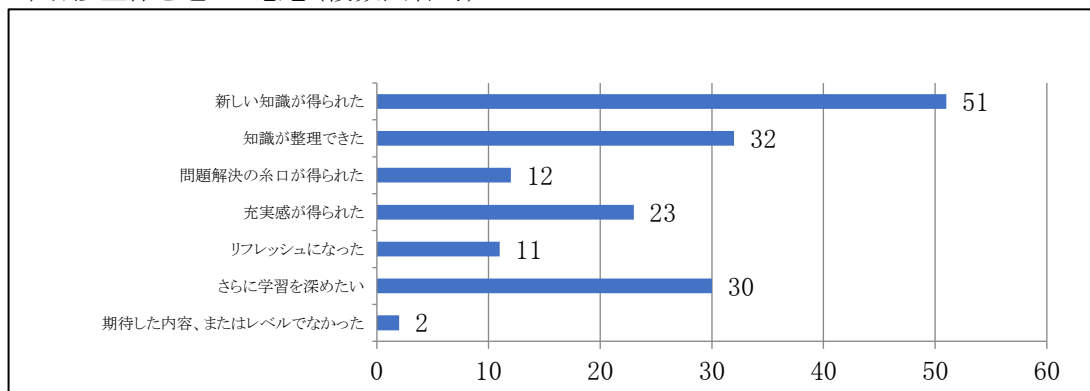
3) 職位



4) 研修内容の評価



5) 研修全体を通じた感想(複数回答可)



6) 意見・感想

- ・ 研修内容が充実して、実践的であると感じました。今後も引き続きの研修を受けていきたい。
- ・ 2次トリアージなど実際に行い、アドバイスを受けることで身につけたい。実践形式が嬉しい。
- ・ 来年災害救護訓練をすることになり、今、それに対して病院で取り組んでいる。スタッフ教育として教えて欲しい。
- ・ 災害時に自分の病院には、行けないため、近くの関連病院や、施設に支援看護として、行きたい。
- ・ 現在、医療現場ではないところで看護師として勤務している。災害時は看護師として何か役に立ちたい。現場を離れているため、こういう研修で学んで知識を得たい。
- ・ 午前中の研修で学んだことも含め、グループワークを通してシミュレーションができたことで、より具体的にイメージができた。さまざまな考えがあり、明確な正解がないことも多いが、とてもよい体験だった。
- ・ 四万十市民病院のDMATの活動も知ることができ、勉強になった。
- ・ 今回は、自分が住んでいる地域外での実務編に参加した。

研修内でもあったが、事前に顔が見える関係を築き、いざというとき協力しあえるというのが大切だと思った。自分が住んでいる地域の研修に参加することはもちろんだが、どこで被災するかわからないので、今回のように地域外の研修にも参加していきたい。

2. 研修担当者コメント

今年度は2地区支部で実務編《医療救護所編》、高知県看護協会で《福祉避難所編》を開催した。START法・PAT法の理解また医療救護所設営や看護支援活動、福祉避難所での看護師の役割についてイメージがついたようである。特に幡多地区支部は【基礎編】【実務編】の同日開催し、より研修内容の効果が高くなったことが考えられる。

【基礎編】と同様に近隣関係機関との顔が見える関係づくりのできる研修を企画していく。

災害看護研修

研修名	能登半島地震における受援・支援活動を振り返り、今つたえたいこと 災害支援ナース・地域災害支援ナースフォローアップ研修	
開催日時	令和6年11月2日(土)	9:25 ~12:35
受講者数	80名(集合31名 オンライン49名)(会員64名非会員16名)	定員 80名
対象	保健師・助産師・看護師・准看護師・災害看護に興味のある方	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・看護職(災害支援ナース・地域災害支援ナース等)の備えと支援のあり方について学ぶ。 ・被災地の状況と受援の実際を学び、自施設に活かすことができる。 	
講師	プログラム参照	
内容	プログラム参照	

1.プログラム

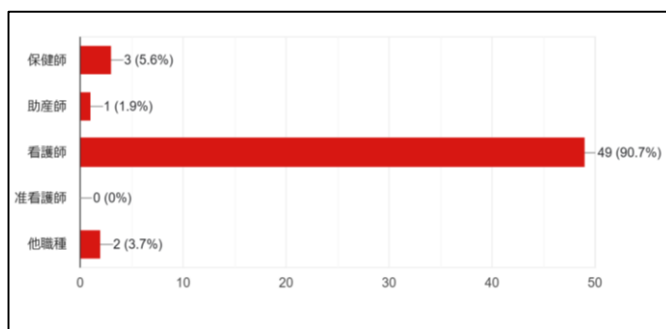
9:25~ 9:30	あいさつ	高知県看護協会 災害看護委員会委員長 高知県立あき総合病院 高知県立あき総合病院	看護部長 中屋 美智 氏
9:30~10:30	恵寿総合病院での発災後の対応・受援の実際	社会医療法人財団董仙会 地域包括ケアセンター	参与 本橋 敏美 氏
10:30~11:30	石川県看護協会の発災時の対応・派遣調整の実際	公益社団法人石川県看護協会	会長 小藤 幹恵 氏
11:35~11:50	恵寿総合病院での派遣活動の報告	近森病院	看護師 北川 知子 氏
11:50~12:05	高齢者施設におけるDMAT看護師の活動報告	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター	DMAT隊員 看護師 須山 知美 氏
12:05~12:20	能登半島地震高知県保健活動チームの活動報告	高知県幡多福祉保健所	健康障害課長 宗崎 由香 氏
12:20~12:30	質疑応答		
12:30~12:35	閉会のあいさつ	高知県看護協会	会長 藤原 房子

2. アンケート結果

参加人数80名 回答数54名 回答率67.5%

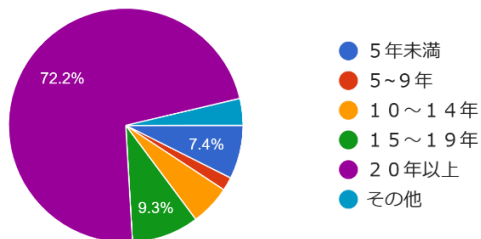
※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答

1) 職名

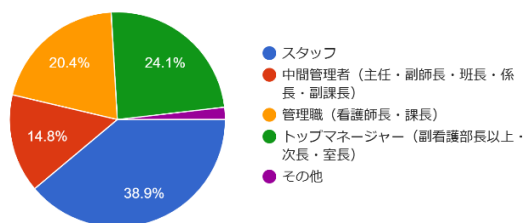


多職種:介護職
医師

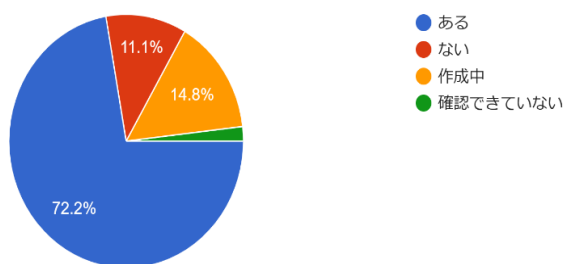
2) 経験年数



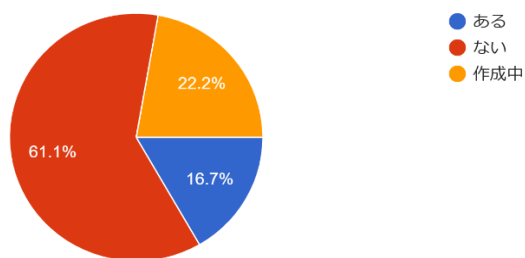
3) 職位



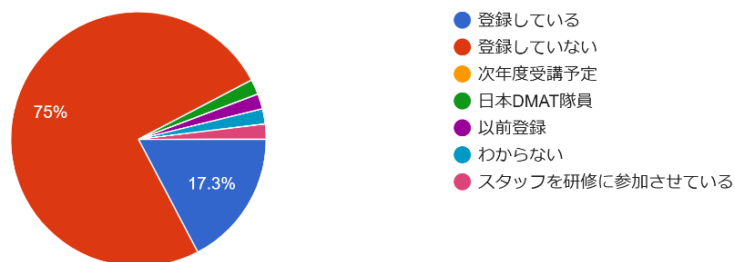
4) BCPは作成されていますか



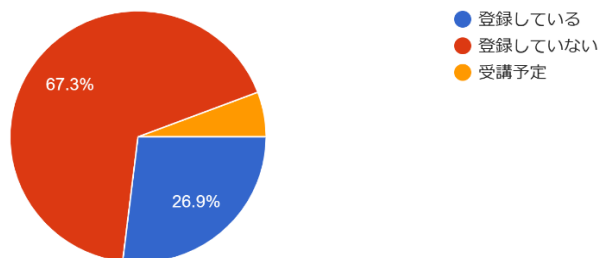
5) 受援マニュアルは作成されていますか



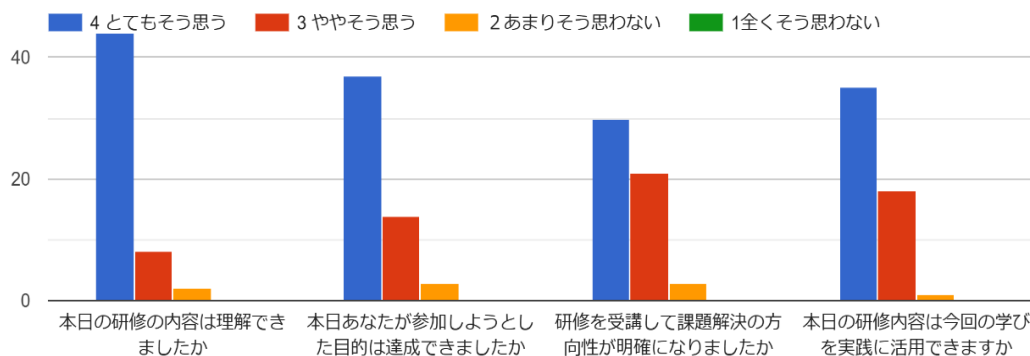
6) 災害支援ナース(新たな仕組み)養成研修は受講し登録していますか



7) 地域災害支援ナース育成研修の受講・登録はしていますか(高知県版)



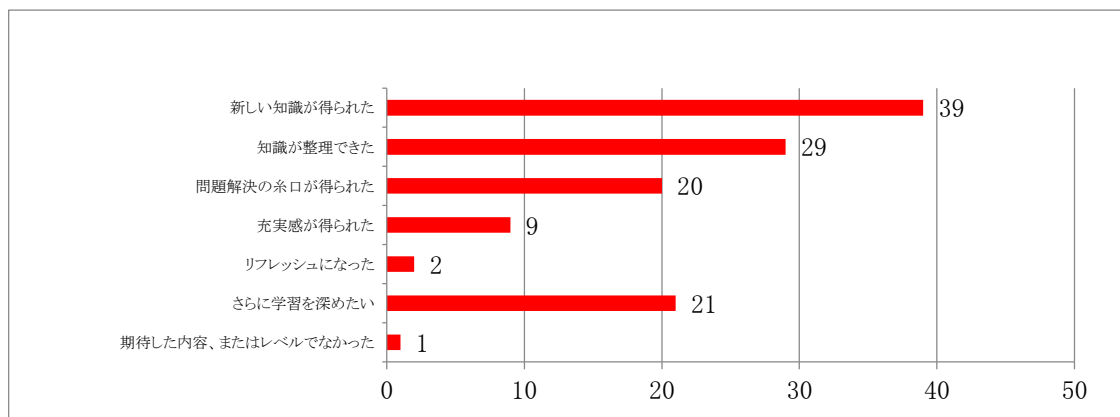
8) 研修内容について、該当する項目を選択してください。



上記を選んだその理由(抜粋)

- ・災害時の感染対策として必要だったことがわかった。現実的に困った所もどんなところであったか知ることができた。
- ・災害地の保健業務での発表で自身の施設での課題が見つかった。(土足禁止やゾーニングなど) 事前の準備も大切だなとも思ったし、避難訓練患者さんの移送なども必要だと感じた。
- ・受援マニュアルの必要性を感じた。
- ・被災された側と支援に行かれた側の両方のお話が聞ける貴重な研修になった。
- ・詳細な報告でとても分かり内容だった。石川県能登地方は高知県と地域性が共通するため、災害時の状況や対応を具体的にイメージすることができた。
- ・当院自体の耐震がまず整っていない状態であり、自院の患者やスタッフをどう守って行くかと言う事から、全く整備出来ていない。会議に参加することもできず、不安ばかりである。まず、自分が生きている事の不安が大きい。
- ・受援体制など自院の準備に役立つ情報を得られた。
- ・被災時の課題が具体的に理解できた。
- ・職場での取り組みの参考となった。
- ・管理職向けの内容だったので、現場で動くスタッフとしては関係ない内容だった。

9) 研修の講義全体を通した感想として該当するものすべてを選択してください(複数回答可)



10)全体を通しての感想やご意見(抜粋)

- ・様々な分野の災害時対策に触れることができ、よい機会になった。
なるだけ、早急に準備できることに取りかかる必要性を感じた。
実際に体験した内容や課題を知ることで来たる大震災の備えに何が足りてないのかが明確にできた為有意義な研修になった。自身での体験を含めて今後の災害時に活かしていけるよう学習を継続させていきたい。
- ・いつ来るかわからない南海トラフへの不安は強いが、起きた時に少しでも慌てず動けるような知識を少しでも学ぶ必要、また、事前準備も大事だと改めて感じた。
- ・恵寿病院の前看護部長の人柄と取り組みに感動した。
- ・病院での災害対応は、とても参考になりました。今後、マニュアルの見直しや施設内の受援体制の構築を検討していく。
- ・実際に体験されたことを話を聞き、よりイメージができた。実際に南海トラフ地震などで被災した場合、どの場所で被災するかでも状況は限りなく想定されるので、その場その場でできる限りの判断、行動していきたい。
- ・具体的な研修内容で良かった。今後、南海トラフ地震に備えて、受援体制をどう整えていかなければならないか、ヒントを得たので、自部署で検討し、体制を構築していきたい。
- ・被災した方のリアリティな報告ほど参考になった。新たな取り組みの糸口がみつかった。

3.研修担当者コメント

本研修は、ハイブリットで開催した。施設のリーダーや関心の高い看護職の参加があり、自施設支援の受援ガイドラインマニュアル作成・受援体制の見直しなど意識が高まった。また、被災状況、実際を知ることにより、イメージができ、今後の受援体制の整備や支援活動に活かしていただく事を期待する。次年度もニーズに沿った研修を企画していきたい。